

**食料・農業・農村政策審議会企画部会（第26回）
における発言概要（抜粋）**

1. 日 時：平成23年1月31日（金）15:00～17:10
2. 場 所：農林水産省 第2特別会議室
3. 出席者：中嶋部会長、青山委員、合瀬委員、篠崎委員、白石委員、
近崎委員、西辻委員、廣野委員、三森委員、森委員、渡辺委員

○篠崎委員

- ・消費の出口は、一般消費者だけをイメージするのではなく、色々な仕組みの中で消費されている部分も議論し、裾野を広げる必要があるのではないか。
- ・農村との交流は、農村体験レベルだけにとどめるのはもったいない。企業の人材育成に体験を盛り込むなど、様々な仕組みに組み込んでいく必要があるのではないか。

○白石委員

- ・今までの農家は作る技術ばかりに目を向け、消費者に買ってもらう営業、販売努力をなおざりにしてきた部分はある。新たな流通チャンネルなど流通政策にもっと力を注いでもよいのではないか。
- ・都市農業は、生産性が高く効率的に営まれている。また、消費者に農業との触れ合いの機会を提供し、都市と農村をつなぐ役割を果たしている。都市計画法との関係も含め、農水省は国土交通省と連携して、都市農業振興策を考えていく必要があるのではないか。

○近崎委員

- ・耕作放棄地に関するデータを管理して新規参入者に提供できれば、地域の参入もスムーズになるのではないか。
- ・食品偽装が後を絶たない。今後自由化が進む中で、売りたいがために「国産品」と表示される事態が増えることも懸念される。どうすれば食品偽装が減るか、真剣に考えるべきではないか。

○廣野委員

- ・中山間地域では、水の問題などもあり、規模拡大ができない。また、ため池については、きちんと管理していないと、台風時などに災害が心配になるが、担い手もいなく、高齢化で池の土手の草刈りもできない状態。
- ・新規参入者は色々な考えで入ってくる。新しい発想を支援する体制が必要だが、地域でメンバーを組んで継続的に支援することで可能となる。新規就農者が農業をやってよかったと言えるような雰囲気は新規参入を促すのではないか。

○三森委員

- ・戸別所得補償制度は、専業農家と兼業農家で、同じ政策でよいのか。専業には厚くするべきではないか。

○森委員

- ・基盤整備の必要性や、保全・充実などを、もう少し前面に打ち出すべきではないか。

○渡辺委員

- ・現在の状況について、何故そうなっているのかというデータを解析することで、地域ごと、品目ごとで、政策が変わるのではないか。

(以 上)

食料・農業・農村政策審議会企画部会 委員名簿

あなん ひさ 阿南 久	全国消費者団体連絡会 事務局長
あおやま ひろこ 青山 浩子	農業ジャーナリスト
おうせ ひろき 合瀬 宏毅	日本放送協会 解説主幹
おくむら かずのり 奥村 一則	農事組合法人サカタニ農産 代表理事
こんどう やすこ 近藤 康子	サントリービジネスエキスパート株式会社 お客様リレーション本部VOC推進部 顧問
しのざき ひろし 篠崎 宏	株式会社ツーリズム・マーケティング研究所 主任研究員
しらいし よしたか 白石 好孝	白石農園 園主
ちかざき なほこ 近崎 奈保子	主婦
なかしま やすひろ 中嶋 康博	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授
いなみ たけし 新浪 剛史	株式会社ローソン 代表取締役社長CEO
にしつじ かずま 西辻 一真	株式会社マイファーム 代表取締役
ひろの まさのり 廣野 正則	有限会社広野牧場 代表取締役
みつもり かおり 三森 かおり	有限会社ぶどうばたけ 取締役
もてき まもる 茂木 守	全国農業協同組合中央会 会長
もり くみこ 森 久美子	作家
わたなべ かつあき 渡辺 捷昭	トヨタ自動車株式会社 代表取締役副会長

(五十音順、敬称略)